

# OUCC OB 会 2021 年幹事会 議事録（詳細版）

日時：2020 年 5 月 16 日（日）10:00～13:30

場所：zoom による Web 会議にて実施

作成：村尾淳（H29 学年幹事）、小島直也（H18、幹事長）

- 参加者（敬称略、()内は入学年度）：米田（S42）、近藤（S43）、多田（S44）、田中（S47）、升谷（S57）、入船（H13）、村瀬（H13）、小河（H18）、小島（H18）、隅（H18）、東（H20）、青木（H22）、渡辺（H22）、森田（H24）、岩本（H26）、金（H28）、村尾（H29）、下村（H29）、糸井（H30）、岩崎（H30）、加納（H30）、西村（H30）
- ※ 議事次第と当日の進行順序が異なるため、以下当日の進行順に従い議事を整理した。

## 1 会計

資料 1 をもとに 2020 年度の会計報告を、資料 2 をもとに会費の納入状況について説明した。質疑応答、意見交換については以下の通りであった。

- 海外郵送が一度返ってきて、再送したことについて、一回の海外郵送ではうまく届かないのか？
  - 執行部となって 4 年で、海外郵送がはじめてであり、詳しくはわからないが、どうやら追跡サービスを利用したものが必要であった。国によって事情も異なるので、送る前に海外在住の会員に対してどのように送るのかについて確認することが重要である。
- 2016 年以降納入率が不安定になっているが、なぜか？
  - 特に何かを止めた、始めたわけではなく原因は分からない。ただし、納入率が下がっているため、現状維持のままではいけないのではないか。また、Facebook など情報発信をしてきたが、今の Facebook はそこまで多くの人々が定期的に確認するものではなく、おそらく、新規の会費納入者の増加には結びついていないとも考えられる。
- 会費納入の内訳について、他の OB 会や卒業生の集まりをみていると、おおよそ 1/4 から 1/3 くらいの方が会費を納めたりしており、それらと比較すると少ないように感じる。なんらかの対策が必要なのでは？
  - 対策が必要なのはその通りである。
- 若い世代から積極的に会費納入を行うことで、安定した収入が得られるとともに、組織の若返りも狙えるのではないか？
  - また、若い世代一案としてありうる。納入率を上げるために、所属や住所の変わり目に連絡を取り、連絡が途絶えないようにフォローをする必要がある。

## 2 現役活動助成金について

資料 4 をもとに現役活動助成金（以下、助成）に関する現執行部の方針について説明した。質疑応答、意見交換については以下の通りであった。

- 会費納入者を増やすということも目的ではあるが、それは達せられていない。
- 佐野・入船・村瀬らが執行部の時期に、助成の広報に力を入れた理由として、それ以前から助成の仕組みは存在したが、現役生は認知しておらず、認知していたとしても申請するのはハードルが高

いと考えたからである。また、当時は、現役生から OB 会に対して距離感が遠かったと考えられ、距離感を近づけたいとの考えもあった。

➤ 現役生との距離感を縮めることには成功しており、止めりのはもったいないのではないか？

- 年2回の募集をルーティン化した結果、助成の申請件数・助成額は増えていった。一方で、心理的ハードルが下がったために、本当に助成が必要な人にいき届いていないとも考えられる。間口は今のままで、必要な人が使える制度に修正していくのがよいのではないか？
  - 特定の人に助成するよりも、全体にゆきわたる方法に意義があるかもしれない。その意味で、親しみを持ってもらうため、OB ランに参加を助成し、OB 会に親しみを持ってもらおうという手段もあるのではないか？
- 助成が始まった理由として、MRT の森田さんが世界大会に出る機会があり、その為のお金を捻出した。そのようなすごいことの挑戦を手伝う仕組みとして最初は作られた。
- 以前、助成金の申請が減った時に、その原因について議論した。その際に手続きが面倒な割に額が少ないのではないかという疑問が上がった。
  - 申請の理由について、ツアーに行けないという意見よりも、ツアーを充実させるためとの意見が多かった。どんな理由でお金に困っているかを記入してもらうことにしていたが、この点は今の申請フォームが上手く機能していないようにも感じる。
  - (会議後補足) 2018年に現役生に対してヒアリングをした際には、助成額が少ない(申請書類を書く時間で、バイトをしたほうが稼げる)という意見は確かにあった。
- 昨今では海外渡航のハードルも低いため、昔より助成金を申請する理由が挙げにくいのではないか。
- 昔は会費の剰余金が多かったため、助成金にも余裕があった。助成金が会計赤字の一因であるならば、会費納入率の目標を決めることで、今よりも助成金が捻出できるようになるのではないか？
  - (会議後補足) 議事次第に記載しているように、50周年記念行事では約70万円の支出があった。会費の先払い分や余裕をもたせるならば、OB会の現預金としては100万円程度があればよいと考えており、その意味ではまだ積み立てられた剰余金は存在する。
- 団体装備などに毎年一定額を送る案はどうか？
  - 2018年度の現役生へのヒアリングでは、部員数が増加したこともあり、部費によって団体装備は十分に購入できているという意見をいただいた。
- 助成金を続けてほしい。認知度は上がったが、会費納入率が上がっていないのであれば、助成金を申請する際にプレゼンをしてもらうなどの取り組みを修正することが考えられる。
  - 幹事会に来て発表してもらおうという案は過去にあった。面接のような形式ではハードルが高いと考え、Wordファイルによる申請形式に変更になった。
- 現役助成金を受け取った学生から阪大坂に活動報告をしていただいております、現役の状況を知る機会になっていた。
- 海外一週間程度なら5万円程度出しても良いのでは。
- コンペを開催し10万円を奪い合う取り組みを、楽しい会として行えれば、OBと現役双方にメリットが生まれる。
- 後述する7.3の議論において、次期執行部の意向を聞いた結果も踏まえ、結論として、現役活動助成金については、2021年はこの仕組みのまま継続することとした。助成金を使いたい人が使えるような仕組みについては、引き続き検討する。

### 3 OB ランの中止、オンライン懇親会の開催、OB 総会について

資料 3 をもとに OB ランを中止し、オンライン懇親会の開催することについて説明した。質疑応答、意見交換については以下の通りであった。

- 開催日と締め切りの日時が間違っている。正しい日時を教えて欲しい。
  - 修正する。オンライン懇親会は 10 月 9 日（土）が正しい。〆切については、改めて確認する。
- オンライン開催なのに締め切りが早いのではないか？
  - 参加者数の把握や名簿作成のために一旦の〆切を設けている。当日参加は OK とする予定である。
- 総会はいつ行うのか。早めに告知があるとありがたい。
  - 同日の日中に行う。
- 今年の 10 月 9 日（土）～11 日（月）はオリンピックの都合で 3 連休でないが、承知しているか？
  - 承知している。とくにスポーツの日だからというわけではない。
- 昨年度は、周知の範囲が狭く、時期が遅かった印象である。ML 等を活用し、頻度を高め、懇親会の認知度を高めて欲しい。

### 4 編集作業の振り返りについて

資料 5 をもとに 2020 年の阪大坂 35 号の編集作業について説明した。質疑応答、意見交換については以下の通りであった。

- 以前、阪大坂が到着する予定日を 12 月中旬にしていた理由は、年賀状を届けたいからであった。
  - （会議後補足）この点については昨年度の幹事会・総会でも話題になった。昨今の状況を見ると詳細な名簿情報は記載できない・記載しなくなったため、「年賀状に必要な住所情報を届ける」との理由は考慮しなくてよいと考えている。
- 今年の発行が 1 月になってしまった理由のうち、学生が 12 月は卒業論文・修士論文で忙しく、対応がしづらいからではないかという意見があった。この点について、年末年始が忙しいなら 11 月末を目指して作業を行ってはどうか？
  - 前倒しできるといいが、原稿集めのタイミングから難しい。年明けで落ち着く時期でも良い。また、原稿の内容は夏季のものが多いため、早めても効果がないかもしれない。
  - 現役生からも活動状況報告を阪大坂原稿として頂いている。銀輪の編集時期と歩調を合わせているような印象でもある。もし早めるのであれば、これらについては昨年度の情報を掲載するように変更するとしても良いだろう。
- そもそも会員案内で告知している原稿締め切は 9 月末である。そこから 12 月まで時間がかかってしまうのはなぜか？
  - ツアー記事以外の記事もあるため、内部的な〆切はもっと遅いためである。
  - 作業を小分けにできないか検討もしているが、編集作業の性質上、原稿が全て集まった後の作業が多い。
- サードパーティーへの納入時期（原稿から製本・印刷を行う時期）を早めることで、全体的に前倒しできるのではないか？
- 業者を使うメリットについて、サードパーティーは夏の会員案内の発送作業で三つ折り・封入対応をしてくれるため、ベストだと判断した。阪大坂については生協が安かったが、今はより安価なサービスが使えるかもしれない。

- (会議後補足) 東から説明があった通り、今年度はサードパーティーからの返信が遅かったこと、評判の良い他のサービスがある事から、乗り換えも検討している。
- 今年度は、昨年度とは異なり、名簿の情報を一部削除したと聞いている。アクセスから出力できなかったと思うが、どのように作業したか？手間は増えたか、減ったか？
  - 今年度は、アクセスからエクセル一覧を出力して、その情報を直接編集した。レイアウトを考えながらの作業であり、2時間程要した。今年の手間は増えたが、レイアウトは固まったので、来年以降の手間は変わらないと考えている。

## 5 名簿管理の振り返りについて

資料 6 をもとに名簿管理の作業・振り返りについて説明した。質疑応答、意見交換については以下の通りであった。

- MS Access の操作が実働にとって不慣れで、難しい面もあるという点について、なぜ Access を利用してきたか？
  - 会員の増加に伴いデータが増えると考えられるため。また、データ入力に関しては、フォームが整っている Access のほうがやりやすいというメリットはある。
  - データが多いと言っても所詮数千件だと考えられるため、Excel でよいとも考えられる。
  - Access のほうがデータ管理の仕組みが厳しいため、誤入力は減ると考えられる。一方で、Excel、Excel のアドイン、フリーソフトの機能も向上しており、必ずしも Access で管理する必要はない。

## 6 関東支部活動報告について

資料 8 をもとに関東支部活動報告について説明した。質疑応答、意見交換については以下の通りであった。

- 執行部として名簿情報の更新があった際などに、関東支部に連絡をするという点について、承知した。関連する質問として、関東支部から関東在住者に定期連絡をするタイミングは決まった時期があるか？
  - 決まったタイミングは無いと思う。連絡担当のサカイに確認する。会員案内の返答が返ってきて、情報更新がなされるタイミングに連絡してもらうのが良いと考える。

(このあたりで、予定していた終了時刻 12:30 を超過。)

## 7 その他の報告について

### 7.1 名簿管理の外部委託について

資料 9 をもとに名簿管理の外部委託について説明した。質疑応答、意見交換については以下の通りであった。

- 管理者（実働委員、執行部）や会員の手間が減るならば、勧めていくことには賛成である。
- Miit+の機能として、会費の決済が可能なのは便利だと思う。一方で、手数料 400 円分の会費収入が減る事への懸念がある。
  - 1 年分の会費 2,000 円に対して 400 円の手数料では割高であり、4 年分の会費 8,000 円であれば割安であるため、会費納入のお願いを 4 年分に引き上げるなどの工夫は可能だろう。

- 現状、年会費 2,000 円の約 1,900 円以上が必要経費に充てられていると考えると、手数料分が赤字になる可能性もある。
- 会計担当者の感覚としては、毎年単年度分の会費を支払う人と、前払いで複数年の会費を支払う人は半々という印象である。
- 名簿管理には Mii+ を利用し、決済は今まで通りに行うならば、手数料は必要なくなる。
- 会費納入者は「自分が〇〇年分の会費を支払う」「□□円の寄付をする」と、振込者名義を使って伝達しているが、同様の振り込み決済・情報伝達が Mii+ のシステムで可能だろうか？ また、自分がどの年度分の会費が払ったのかを覚えている人はいないと思うので、支払い履歴を確認できる機能、管理者が表示するがあるかどうかについては追加で調べて欲しい。
  - 追加で確認する。Mii+ を通じて決済した履歴は、会員側で確認可能である。今のところ考える方法として、管理者側で X 年分、Y 年分、Z 年分というコース（選択肢）を用意しておいて、会員はそれを選んで振り込むという案が考えられる。
- 名簿管理のシステムとして調査をした結果 Mii+ を見つけたという経緯はあるが、Mii+ は決済管理のシステムではないか？
  - 恐らくその通りで、この運営会社は決済管理で収益を上げていると考えられる。
  - 名簿管理のシステムとして利用を初めて、将来的に決済に利用するという方法はある。一方で、利用者としては併用よりも、一つのサイト内で完結しているほうが良いだろう。
- 今までのように、用紙で振込依頼が来て、その振込先が三井住友銀行ならば、会員としては安心できるだろう。一方で、今後電子メールやダイレクトメールで案内が来て、振込を Web システムで行うとなった時に、（特に高齢の）会員が特殊詐欺を疑うようなケースも考えられるかもしれない。
- 書類発送のようなサービスはやっているか？
  - やっていない様子である。
- 会員の了承を得るといえる点はどういう意味か？ 初期値として何らかの情報を入力しておく必要があり、そのために名簿情報の一部を Mii+ 側に渡しているという風に解釈すると、会員一人一人から「登録しても良い」という了承が必要と言う意味か？
  - そういう考え方もありうる。一方で、OB 会として必要と判断すれば、外部に対して情報提供することは可能とも考えられるので、この考え方を適用して問題ないとの判断もありうる。

## 7.2 細則について

資料 10 をもとに関東支部活動報告について説明した。質疑応答、意見交換については以下の通りであった。

- 4~6 回生の納入を免除するという件について、反対に 4~6 回生からも会費を納入してもらおうという案も選択肢の一つではないか？
  - ありうる選択肢の一つだと思う。結論は出していないが、数年前にその案は議論された。
  - 4~6 回生の意見として、「払う事は可能である」「可能であるが、それを払う意味や意義が今の段階ではわかっていないので、ためらうかもしれない」という意見が挙げられた。
  - （会議後補足）「毎年の案内・会報の作成・発送以外に、現役活動助成金に回されうる」ということを伝えれば、納入してもらいやすいかもしれない。
- 役員報酬について、報酬を出すことには反対しない。適否や額面とともに議論しても良いと考える。金銭と言う方法以外では、代替わりとともに記念品を贈答するという考え方があっても良いだろう。

- 実際に役員報酬を支払う流れを作るのであれば、今年度分（H18 小島ら執行部）に対して、支払っても良いように感じる。次回の総会で具体的に諮れるように、書類を用意してもよいだろう。
- ✧ （小島の私見、当日も発言）立場上、小島が制度設立者でもあり、そのお金を受け取る者にもなるので、今年の総会で諮るのであれば、「役員には謝金を支払う」という書面と同時に、「謝金を辞退する」書面も用意しておくつもりである。
- S41 幸田元会長（現・名誉会長）が S57 升谷と交代する際には、お花をお贈りしたのみであり、記念品などはお贈りしていない。60 周年の機会などでも良いので、何らかの記念品をお贈りすべきだろう。

### 7.3 次期執行部の取組みについて

当日、H22 青木が持参した資料（追加資料 1）をもとに関東支部活動報告について説明した。質疑応答、意見交換については以下の通りであった。

- （Mii+のシステムに関する話とも重なる）電子化自体は良い取り組みだと思う。一方で、高齢の方の一部は電子機器の操作が苦手で、今まで年に 2 回しか接点が無かったと思われるので、そういった方が OB 会から離れていかないような工夫も欲しい。
- S40～S50 入学年代の方の意見として、電子メールや一般的なファイルフォーマットを利用する事自体は問題ないだろう。一方で、メールアドレスが適切に捕捉されていないという問題が常に懸念され、メールアドレスが届かないとなれば、電子化以前の問題である。
- （再掲）振り込みについて、銀行のような保守的なシステムではなく、新規システムを利用する場合は、特殊詐欺を疑う会員は出てくるとされる。